

小規模事業者

経済動向調査報告書

<那珂市>

2021年10月～12月期

那珂市商工会

1. 目的

那珂市内の小規模事業者の景気動向等を分析し、その詳細な実態を把握し、市内小規模事業者に開示することで、経営に活用していただく。

2. 方法

市内の製造業、建設業、小売業（卸売業を含む）及びサービス業の小規模事業者から約 15 社をサンプルとして選出し、聞き取り調査を行う。

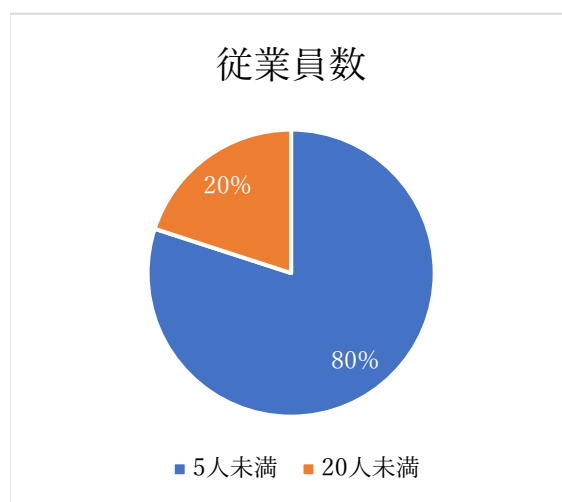
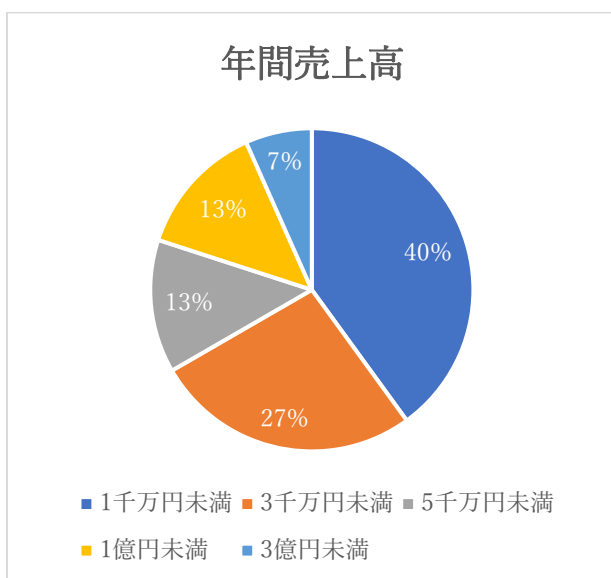
3. 調査事業者

- | | |
|---------------|-----|
| ① 製造業 | 3 社 |
| ② 建設業 | 2 社 |
| ③ 小売業（卸売業を含む） | 4 社 |
| ④ サービス業 | 6 社 |

4. 調査項目

- ① 売上高、販売単価、経常利益、資金繰り、人材確保及び景況感を聴取し、業種別に比較。
- ② 現在認識している経営課題を調査。
- ③ 新型コロナウイルス感染拡大の経営への影響を調査。

5. 事業者の規模



I. DI 分析

表1：2021年10月～12月のDI

	全体	製造業	建設業	小売業	サービス業
売上高	-13.3%	33.3%	0.0%	-25.0%	-33.3%
販売単価	-20.0%	33.3%	-50.0%	-25.0%	-33.3%
経常利益	-26.7%	0.0%	-50.0%	-25.0%	-33.3%
資金繰り	-6.7%	0.0%	-50.0%	-25.0%	-16.7%
人材確保	-20.0%	-33.3%	-50.0%	-25.0%	0.0%
景況感	-46.7%	0.0%	-50.0%	-50.0%	-66.7%

- 前回（2021年7月～9月）より、製造業が大幅に改善しており、ここでも新型コロナウイルスの感染状況と相関している様子が窺える。ただし、経常利益は回復していないようだ。
- 長らく著しい悪化が続いていた建設業において、少し落ち着きを取り戻した様子が窺える。
- 一方で、サービス業は若干低下傾向にある。
- また、全体的に人材確保が難しくなっている様子も窺える。

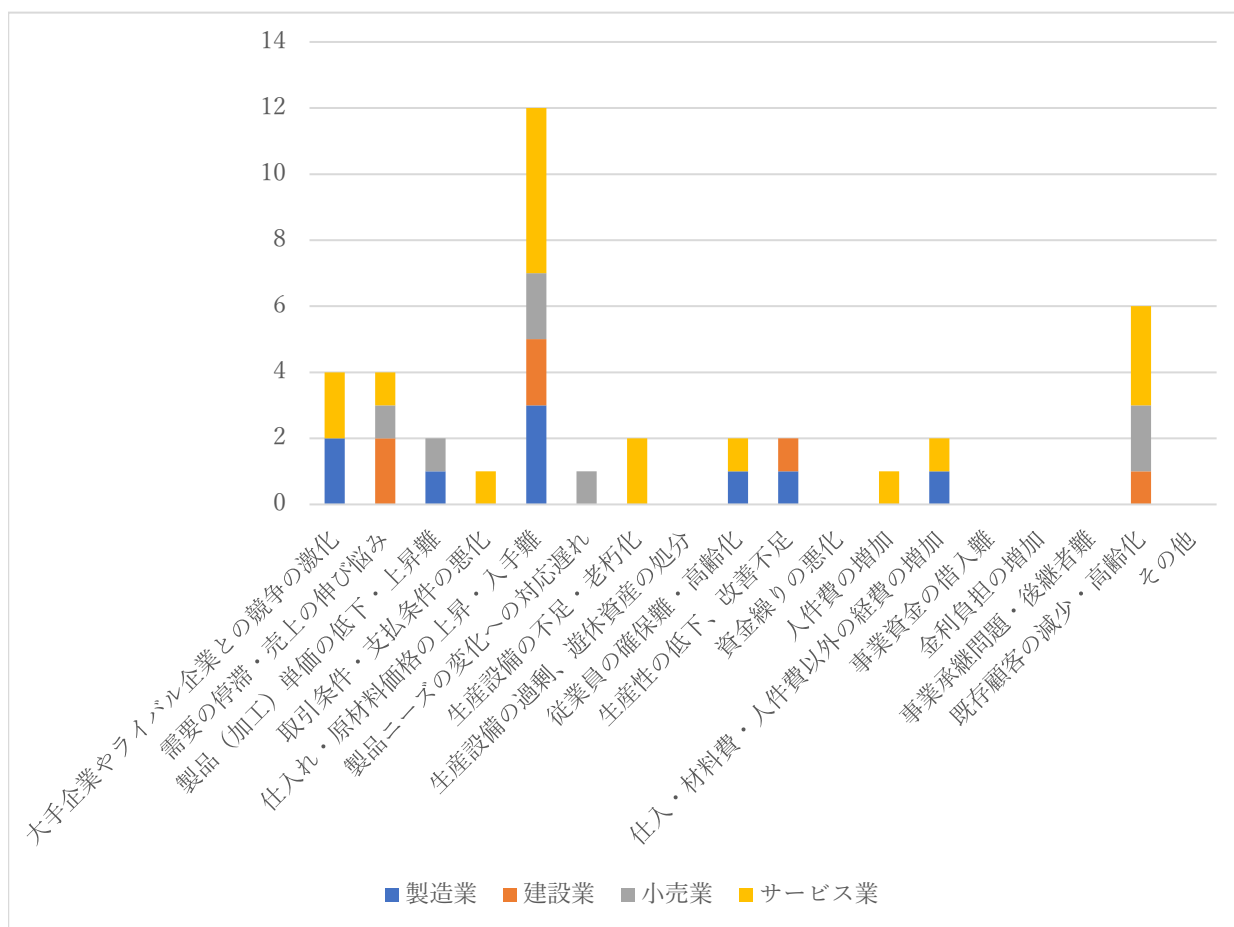
DI（業況判断指数）

景気局面の判断や、予測と景気転換点の判断に利用される景気動向指標のひとつ。業況下や景況感といった明確に数値化しにくい対象を、比較化することで景況を判定する。

「景気が良い」と感じている企業の割合から、「景気が悪い」と感じている企業の割合を引いたものをパーセンテージで表し、プラスは良好、マイナスは悪化として、その度合いで判定する。

II. 課題意識調査

図1 2021年10月～12月の課題意識



- 前回と比べ、仕入れ・原材料価格の上昇・入手難の問題にさらに拍車がかかっている。特に、サービス業において顕著に増加している。
- また、サービス業において、顧客の減少・高齢化は顕著になっている。一方で、人件費の増加は解消されつつある。
- その他の項目では、全体として課題意識は減少している様子が窺える。

III. 新型コロナウイルス感染拡大の経営への影響

図2 コロナ禍による経営の悪化の推移

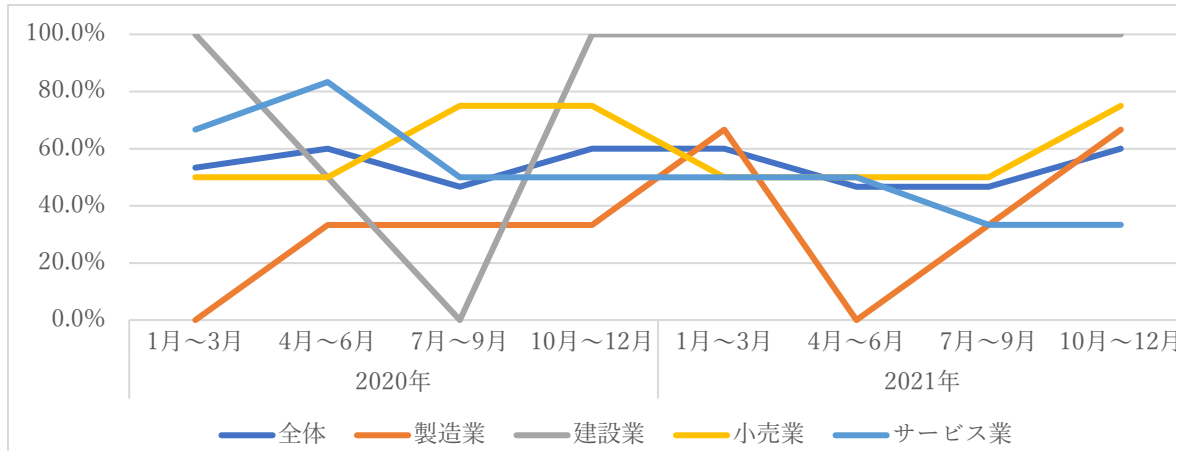
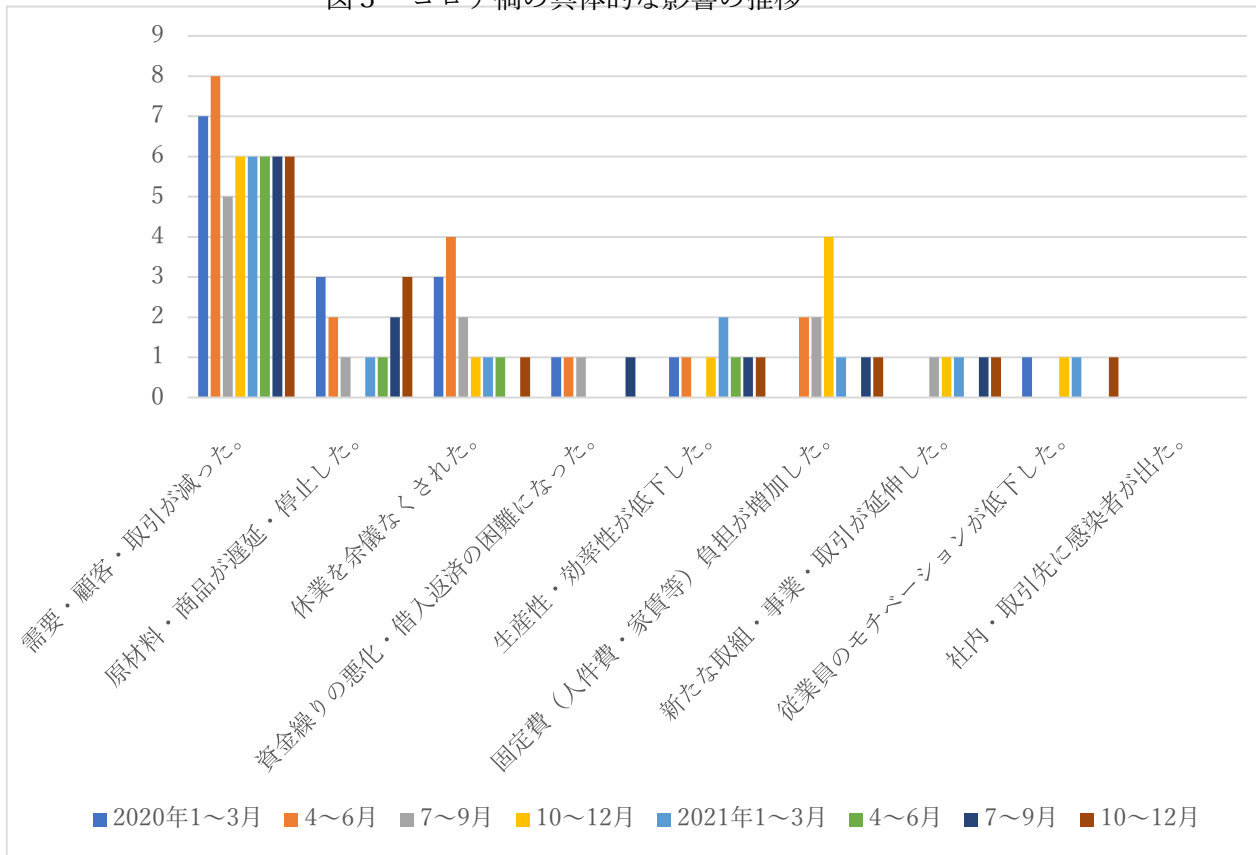


図3 コロナ禍の具体的な影響の推移



- コロナ禍の影響により、製造業で経営の悪化が見られ、DI値とは相反する結果となっている。
- また、建設業もDI値では回復の兆しがあったが、この分析では相変わらず高い値となっている。
- 原材料・商品の遅延・停止は、さらに増加している様子が窺える。また、需要・顧客・取引の減少も相変わらず高い水準にある。その他の項目では、顕著な変化・数値はない。
- 新型コロナウイルスの感染状況は落ち着いている状況下だったが、需要減・仕入難は続いており、経済回復は僅かに留まっていると見ることができる。

以上